

宮城英雅先生おめでとうございます。

～宮城英雅先生旭日双光章受章祝賀会～

常任理事 宮里 善次



平成 26 年 6 月 11 日ザ・ナハテラス（アダンの間）に於いて、宮城英雅先生旭日双光章受章祝賀会を開催致しました。連日の梅雨空にも関わらず、多くの会員の方々が集い、盛大な祝賀と激励会を行いました。

初めに主催者を代表して宮城信雄会長のご挨拶、真栄田篤彦那覇市医師会長による宮城先生のご業績紹介が行われ、続いて沖縄県保健医療部・仲本朝久部長の来賓祝辞が披露されました。

それぞれのご挨拶の中で、宮城先生が長年に渡って沖縄県医師会に貢献されてきた事を述べられていたのが印象的でした。

先生は沖縄県医師会の理事を 6 年間、常任理事を 6 年間、更に副会長を 2 年間、実に合計 14 年の長きに渡り医師会活動にご尽力されたのです。

謝辞で宮城先生は受章の栄誉は自分個人で頂いたものではなく、お集まりの皆様、奥様をはじめこれまで支えて下さった方々のご指導の賜物であると感謝のお言葉を述べられました。

沖縄県医師会代議員会議長の長嶺信夫先生の

ユーモアと愛情あふれる乾杯のご発声の後、宮城先生も壇上から降りられて会員の方々とご懇親を深めておられました。

宮城先生おめでとうございます。今後益々のご活躍を祈念致します。

挨拶

宮城信雄沖縄県医師会会長



本日ここに、宮城英雅先生旭日双光章受章祝賀会を開催いたしましたところ、多数の皆様にご出席頂き、厚くお礼申し上げます。

宮城先生のご業績は後程詳しくご披露されますが、先生は沖縄県医師会役員として長年に亘り会の発展並びに県民の保健・医療・福祉の向上に尽力されたご功績によりこの度の栄誉ある章を受章されております。

宮城先生の輝かしいご功績は、私ども会員は

もとより県民だれもが等しく認めるところであり、本県の医療・保健・福祉の歴史を振り返って見たとき、先生がこれまで果たしてきた役割はいかに大きなものであったかを改めて認識するものであり、ここに先生の永年のご労苦に対し沖縄県医師会を代表して深甚なる敬意と謝意を表する次第であります。

さて、現在、我が国においては少子高齢化が急速に進展すると共に、医療への過度な規制緩和、TPP、控除対象外消費税等団塊の世代が75歳となる2025年問題に向けての地域包括ケアシステムの構築等さまざまな諸問題が山積しておりますが、沖縄県医師会としても、これらの諸問題に対し日本医師会並びに各県医師会そして、地区医師会と連携を強化し、医療界の発展に尽力して参りたいと考えております。

また、県内に目を向けますと、本県の平均寿命が女性が1位から3位に、男性は30位へと転落し、このままでは、更に順位を下げる事も十分に考えられる事から本会では、健康長寿復活に向け、沖縄県と協力しながら諸事業を展開しております。まず、「おきなわ津梁ネットワーク」の構築です。これは、脳卒中、糖尿病、急性心筋梗塞等生活習慣に起因する疾患についてITを活用した地域連携クリティカルパスを構築すると共に、特定健診の受診結果等の保健情報のデータベースを以って、地域の医療連携を図り、急性期から慢性期、在宅へと住民に切れ目の無い保健医療を提供し、健康長寿復活を目指すものであります。また、次代の沖縄を担う児童生徒にも、自分の健康を考えてもらうため、小学生向け、中学生向けの「心の健康」・「生活習慣」・「食育」の副読本を作成着手しております。

沖縄の健康長寿復活は、県民医療を担う私ども沖縄県医師会にも責任があります。私ども執行部も全力を挙げて取り組む所存であります。宮城先生におかれましては、何卒、今後とも卓越したご見識によるご指導、ご助言を賜り、県民が真に健やかに暮らせる医療提供体制の構築にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに臨み、永年に亘って先生を支えてこられたご家族の皆様へ深甚なる敬意を表すると共に、皆さまの今後益々のご健勝とご多幸を祈念して私の挨拶とさせていただきます。

業績紹介

真栄田篤彦那覇市医師会長



この度の宮城英雅先生旭日双光章受章に際し、輝かしい数々のご功績の中から主なものを簡単にご紹介させていただきます。

先生は、昭和57年4月から昭和63年3月まで沖縄県医師会の理事として6年、昭和63年4月から平成6年3月まで沖縄県医師会常任理事を6年、平成6年4月から平成8年3月まで沖縄県医師会副会長を2年歴任され、計14年間の永きに亘り地域医療、保健、福祉の向上に尽力されました。

先生は、沖縄県医師会学校保健担当理事として、学校医活動を行うに際し活動の指針の必要性を痛感され、昭和60年3月に「学校医の手引き」を作成されました。当該手引きは地域特性に即した内容となっているとして会内外から高い評価を得、学校医に配布し10年以上に亘って学校保健活動の方針として活用され、学校保健の向上及び学校医の質の向上に多大な貢献を果たしております。

その他にも、当時の比嘉執行部が掲げる「開かれた医師会」づくりを推進するため、先生は県民とのコミュニケーションをより深めることを目的として社会参画型のチャリティー写真展・メディカルフェスティバルを企画・開催し、その中心的役割を担われました。「ヘルシーハート」チャリティー写真展は、交通遺児の育成に寄与する目的により開催され、医師会員並びに関係者より募集した写真作品を展示販売し、得られた収益金を交通遺児育成基金に寄付しており、現在は那覇市医師会においてその事業を引継ぎ、毎年開催しております。また、社会福祉団体及び関連施設を支援する事を目的に「愛・

ふれあいのメディカルフェスティバル」公演を開催し、その公演で得られた収益金は34団体に寄付されております。

それから、那覇市立久茂地小学校学校医として、30年以上もの永きに亘り学校保健計画の立案及び実施に向けて事前又は事後に指導助言を行っており、学校行事（就学時健診・健康診断・自然教室・修学旅行）等での保健活動の実施及び学校保健委員会等において適切な指導助言を行う等、保護者に対して児童の健康教育の啓発に努めました。

更に、所属する那覇市医師会の「学校保健運営委員会」の活動を通して、那覇市教育委員会と連携して「研究指定校」として調査研究を行いました。久茂地小学校においては、「肥満児対策」の調査研究に取り組み、所属医師会の学校保健講習会に実践事例をまとめ、多くの学校医に示唆ある講演を行い、常に学校保健活動の推進に尽力されました。

以上のような宮城英雅先生のこれまでの長年に亘るご功績が認められ、この度、旭日双光章受章の栄に浴されております。

宮城先生のこれまでの御苦労に対し、改めて深い敬意と感謝の意を表すると共に、今後とも御健勝でご活躍されん事を祈念いたしまして、簡単ではございますが、業績紹介を終わります。

この度の受章、誠におめでとうございます。

来賓祝辞

仲本朝久 沖縄県保健医療部長



宮城英雅先生旭日双光章受章祝賀会が開催されるに当たり、お祝いの言葉を申し上げます。

宮城先生の旭日双光章の受章、誠におめでとうございます。旭日

双光章は、公共に対し功労のある方のうち、顕著な功績を挙げた方に授与されることとなっております。

先生の長年にわたる御功績は、医師会活動の発展に貢献し、本県の地域医療、保健、福祉の

向上に大きく寄与したものであり、その御尽力に対して深く敬意を表します。

また、先生は、本県の本土復帰の前後に琉球政府厚生局予防課長、那覇保健所長等を歴任された経歴をお持ちと伺っております。改めて、先生の本県の保健行政への御貢献に対して、感謝申し上げます。

県では、地域医療の質の充実を図り、切れ目のない医療を提供する体制の確保に努めております。また、今年度から健康長寿復活プロジェクトを発足させ、社会全体で健康づくりに取り組み、「健康・長寿おきなわ」を維持・継承し、2040年に平均寿命日本一を取り戻すことを目指して施策を推進することとしております。

沖縄県医師会の皆様におかれましては、今後とも一層の御支援、御協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、今回の栄えある表彰を受けられました、宮城先生今後の益々の御健勝と御活躍を祈念するとともに、本日の祝賀会を開催された沖縄県医師会の御発展と会場の皆様の御健勝、御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

謝 辞

宮城英雅先生



この度旭日双光章を戴きました。身に余る光栄です。その上に県医師会で祝賀会を催して下さりカフウシで御座いました。宮城会長始め理事、事務局の方

に心よりお礼を申し上げます。真栄田那覇市医師会長及び仲本保健医療部長には業績紹介と祝辞を賜り有難う御座いました。更に長嶺代議員議長には乾杯の音頭をとって下さいましたが身内のことまでご紹介下さり、面映ゆくもあり、嬉しくもあり感激致しました。それにしましてもお忙しい中を大勢の方がお越しく下さいまして有難う御座いました。一生忘れられない思い出となります。僭越ですが私の過去の一部を紹介

介しましてお礼の言葉に替えたいと思います。

乳幼児健診

1970年10月名護保健所から琉球政府厚生局予防課長に赴任した。

当時は、伝染性疾患（結核・寄生虫症・赤痢・フィラリア）精神疾患が公衆衛生のプライオリティの高い課題であった。立ち遅れている乳幼児保健を政策的に打ち出すべく、厚生省からの医師派遣制度を活用して平山東大教授を団長に小児科医・心理士等が数名、地元からも小児科医が参加して質の高い健診体制を組織し、大々的な健診システムを立ち上げた。これが現在行われている乳児・1歳半・3歳児健診の基本となっている。期間はクリスマス前の1週間であったが、後に夏休みの2週間に延長されて、宮古・八重山まで足を延ばすようになり、10年程続いた。

小児保健協会

復帰直後、東大の船川教授から知念正雄先生に小児保健協会の設立について話があった。時の母子栄養係長の仲里幸子さんとも同席してもらい、知念先生のご説明を拝聴した。事務局を母子栄養係に置き仲地吉雄先生に会長になって頂き組織はできた。乳児健診の国庫補助金を活用し、協会を育成することにした。然し環境を整えることは至難の業で医師の確保、市町村の対応、場所の確保等々課題は山積していた。保健所、市町村、医師会と地ならしをして中央保健所を借りてスタートしたのが、現在も日曜日にどこかの自治体で行われている乳児健診である。今でこそ小児保健協会が仕切っているが、当初は全て母子栄養係が行っていた。蓄財も増えた頃、協会は社会的にどのように在ればよいかと小堀啓介弁護士に相談したところ、法人なりしてビルを建てなさいとご教示下さった。私はその辺りで理事を退任した。知念正雄・小渡有明・玉那覇栄一先生等がそれを実現した。

医療保健連合（なごみ会）

私が常任理事になった時、三師会（医師・歯科医師・薬剤師）を定期的に聞いて互いの直面している問題を相互理解し社会に対して行くことを提唱した。次の年には看護協会を招き、更に検査技師会、レントゲン技師会、柔道整復師

会、歯科衛生士会、栄養士会など順次、会に入ってもらった。会の名称も医療保健連合となり、ニックネームをなごみ会とした。今では加盟団体もかなり増え、健康増進のイベントまで立ち上げているようだ。

研修医との懇親会

勤務医にとって医師会の存在は縁が遠いものに映っているような気がしてならなかった。そこで医学部を卒業し研修に入る前に、講話（医師会長）と懇親会を持つことを企画した。琉大も承諾した。医師会を理解してくれるだけで十分と始めたことだが、今では他の研修系列の者も合同でやっている。素晴らしい展開である。

以上のことはアイディアを比嘉國郎会長に進言すると「おもしろい。理事会にかけなさい。」と私を泳がせて下さった。理事と事務方のご協力で実現した。

沖映通りのこと

沖映通り商店街振興組合の理事長を16年務めさせてもらった。歩道を広く大理石で舗装し、電線を地中に埋設し、せせらぎを流した。今でも涼しい音を立てて魚を育てている。

去年は、漫湖公園の鷺が国場川、久茂地川せせらぎと伝い来て、朝の車の少ない時間帯に車道に舞い降り魚を狙っている姿を何度も目撃した。モノレールの開通に合わせて美栄橋駅前広場でイベントを計画していたら、細田沖縄担当大臣、知事、市長が列席する式典になってしまった。私も末席を汚す榮に浴したものである。

駄文を顧みず縷縷述べてまいりました。之をもちましてお礼の言葉に替えさせて頂きます。ニフェーデービタン。



表彰



左から、宮城会長、仲本保健医療部長、長嶺先生、宮城先生、真栄田先生、中田先生、中村先生、糸数先生、安里副会長



左から、田中旨夫先生、中山良有先生、嶺井ミツ先生、宮城英雅先生、伊志嶺隆先生、友利博朗先生



左から、仲原靖夫先生、名嘉勝男先生、宮城先生、安里良盛先生、喜久村徳清先生



会に華を添えて頂きましたご婦人方と一緒に記念撮影



左から、金城幸善先生、宮里尚義先生、宮城先生、小渡有明先生